



# 学校だより

令和6年 6月 1日

東京都立村山特別支援学校

校長 阿部 智子

〒208-0012

武蔵村山市緑が丘 1460 番地 1

電話：042-564-2781

## 「村山の子供たちの学びを深め、高めていくために考えることは何か」

5月2日(水)「第73回はたらく消防の写生会」の作品創作のために、近隣の消防署である北多摩西部消防署からポンプ車とはしご車が、緑が丘校舎に出動してきてくれました。緊急出動があった場合にはこのような経験は大変難しいことですから、最長まで、はしごを伸ばした消防車をここまで間近で見たことは私ありません。

緊張感あふれる消防士さんたちの勇ましい姿を、子供たちは真剣に見つめていました。消防車と消防士さんにくぎ付けで写真撮影していましたが、子供たちの写生画の方は納得のいく作品として描けたのか…。画板に筆記用具、クレヨンに絵具等を駐車場に運び出して、バス駐車場に並んで作品作りを行っていました。皆で空を見上げたゴールデンウィーク谷間のお天気の良い日でした。



### 【集合型、仮設校舎外付けスロープを使用しての避難訓練】

三階建ての緑が丘校舎は、1階の小学部や保健室、2階は中学部と音楽室や自立活動室など特別教室、3階は高等部と職員室になっていて、授業中はそれぞれグループによって異なる場所で学習することがあります。本校舎にいた時と同様、それ以上にこの緑が丘校舎内での安全・安心な生活を確認しながら行っていかなければ、いざというときに対応できません。

本部とトランシーバーを使いながら、今年度、初めての小学部1年生も含めて、スクールバス駐車場に全校児童・生徒が避難をしました。校長講話では、4月5月の訓練で「忘却(ぼうきゃく)」という言葉キーワードに話をしました。【人間誰も恐ろしいことや嫌なことは忘れ去りたいと思います。ですから災害の怖さも人間の記憶から少しずつ消えてしまいます。しかし、自然というものは私たちの記憶の忘却とは反対に少しずつ違う形で動いていて、これから地震が発生する確率は高くなっています。だからこそ毎月の避難訓練があるのです。】という話をしました。

今年1月1日の石川県能登半島地震により、今まで住んでいた家では生活できない人たちがたくさんいること。

13年前の東北地方太平洋地震とこれに伴う福島第一原子力発電所事故による災害では、東京に住んでいても大変恐ろしい地震であったこと。中学部、高等部の生徒は、13年前には、生まれていられず、おうちの方々はどうやって皆さんを守ってくれていたのか。



外付けスロープを降りてくる高等部の生徒

自分事として避難訓練をする意義や、災害のことを考えてほしいということを伝えていきます。学校生活の中では、「これから防災教育を行います」というものだけではなく、我々教員は日々、子供たちに生きることの大切さや災害の恐ろしさに対して、皆で協力して対処することの重要性を語り、実践します。今回の避難訓練では、その空気感や緊張感を児童・生徒は受け止めてくれたと感じました。校内での避難訓練は毎月あり、それぞれ想定を変えて常に真剣に訓練し、対応を考えて行っています。校内での避難訓練に、保護者の方が参加して下さるとよいなと私は考えていますので、保護者の方が登校してきた折、または校内にPTAでいらしていた際はぜひ、人員確認や避難経路の確認など一緒に考えていただくと心強いです。避難訓練の放送は校外にも流れるので近隣にお住いの皆様にも御迷惑をおかけしています。緑が丘校舎での安全・安心な生活を守るためにも大切な訓練ですので皆様の御理解、御協力をいただきたいと考えます。

### 【村山特別支援学校のインタビューボードを作りました】

スポーツ選手が優勝会見をしたりするときや、ZOOM会議などで背景に使うインタビューボードを村山特別支援学校仕様で作成しました。本校のスクールカラーは何？と聞いたところ、答えはなかなか返ってきませんでした。先日、高等部の生徒会の生徒が挨拶運動を行いたいという要望を校長に伝えてきてくれたので、こうしたインタビューボードの前で発言や発表等に使ってほしいと考えました。

村山のグリーンとイエローは校章の色に合わせました。愛校心をもって村山の生徒であるという「自身」と「自信」を育てたい。単なるインタビューボードではありますが、「学校が好き」という思いを児童・生徒、教職員、保護者が一つになるきっかけにしたいと思います。御来校の折、インタビューボードを背景に写真を1枚いかがでしょうか。



### 【教職員の研究に関すること…5月2日15日22日23日29日、どんどん授業が面白くなるために】

先月の学校だよりでお話した、学習指導要領をどのように考えるかということについて、5月に入って、「学習指導要領を読み込み、教育内容を考えること～学期末・年度末の評価に生かすために～」というテーマから、今年度の村山の研究活動を始めました。

2日と15日は、学習指導要領の考え方、内容の特色、学習指導要領解説の読み解き方、国語、算数・数学を例にとった段階ごとの内容、学び落としのない年間指導計画の重要性について、多目的室にて本校教職員対象に私から話をしました。文部科学省著作教科書☆本を使った授業づくりについてや、3観点の学習評価については、児童・生徒の日々の学習における変化や過程を見落とさないように授業者と学校介護職員との連携は不可欠です。子供を真ん中において、教員としてどのような力を付けたいのかを常に考える必要があることを話しました。22日23日は教員が研究授業を見合うための「授業者サポート会議」のシステム作りについて研修を行いました。介護職員は、「子供への言葉掛けの重要性」についての研修を行っています。

また、29日には、**元筑波大学教授、前筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校校長、元文部科学省初等中等教育局特別支援教育調査官下山直人先生と、東京都立小平特別支援学校指導教諭椎名久乃先生**にお越しいただき、学習指導要領に



準拠した教育課程、障害の重い子供のための学びの地図としての学習指導要領、各教科を学ぶ意義、☆本を使用した授業について指導事例を御教授いただきました。御講演後のパネルディスカッションは短時間ではありましたが、言葉の重要性を改めて考えさせられる時間となりました。「**各教科の本質にこだわって授業を創る**」ことで、子供の生活を豊かにし、社会参加の可能性をいかに拡大できるか。丁寧に授業づくりに向き合っていきたいと思えます。

校長 阿部 智子